令和元年度第２回岩手県政策評価専門委員会

（開催日時）令和元年 11 月 11 日（月）10：00～11：30
（開催場所）エスポワールいわて　３階特別ホール

１　開　会
２　議　事
　（１）令和元年度政策評価等の実施状況について
　（２）その他
３　閉　会

出席委員
　吉野英岐専門委員長、遠藤一子委員、工藤昌代委員、西田奈保子委員
欠席委員
　斉藤徹史副専門委員長、小野澤章子委員

１　開　会

○北島政策推進室評価課長　ただいまから令和元年度第２回岩手県政策評価専門委員会を開催いたします。

私は、事務局の政策地域部政策推進室評価課長の北島と申します。

はじめに、委員の皆様の出席状況について御報告いたします。本日の御出席いただいている委員の皆様は４名で、委員総数の半数以上を満たしておりますので、政策等の評価に関する条例の規定により、会議が成立することを御報告申し上げます。

次に、配付資料について確認いたします。本日の資料ですが、次第、名簿、座席表のほか資料№１として政策推進プランの評価調書記載イメージ、資料№２として令和元年度政策評価等の実施状況についてを配付しております。御確認をお願いします。

また、本日の会議の公開、非公開についてですが、７月 25 日に開催した第１回政策評価専門委員会において、今回第２回の会議は非公開での開催を決定しております。改めてお知らせいたします。

それでは、条例の規定により会議の議長を専門委員長が務めることとなっております。以後の進行は吉野専門委員長にお願いいたします。

２　議　事

（１）令和元年度政策評価等の実施状況について

○吉野専門委員長　おはようございます。朝早くからありがとうございます。第２回目の政策評価専門委員会を始めていきたいと思います。

膨大な資料ですが、時間は今日は１時間半を予定しており、手際よく進めていきたいと思いますので、御協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に従い進めますが、議事の（１）、令和元年度政策評価等の実施状況について、事務局から御説明をいただいた後に委員の皆様から質問、御意見いただくことにし

たいと思います。
　それでは、早速お願いいたします。

〔事務局、資料№１、資料№２に基づき説明〕

○吉野専門委員長　ありがとうございました。これから委員の皆様の御意見、御質問をいただきたいと思います。大体時間 50 分程度用意されております。お気づきの点があれば、まず各委員の皆さんから伺いたいと思います。いかがでしょうか。
　確認ですが、資料２の概要版の課題と今後の方向に、いわゆるいわて幸福関連指標が幾つかのうち幾つかは上昇して、幾つかは下降しているという表現で大体統一されているところですよね。例えば政策Ｉの健康・余暇であれば９指標のうち７指標は上昇、２指標は下降という表現になっています。これは新しい政策分野の形にあわせて見てみると、こういうふうに見えるということなのですけれども、それぞれの具体的な指標名というのは、特にここには記載していないということでよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　それはどこを見ると一番早くわかると考えていらっしゃいますか。例えば健康・余暇が９指標ございますよね。

○北島政策推進室評価課長　概要版につきましては、上昇の指標が何で下降の指標が何かというのはお示ししておらず、本体をご覧いただきたいのですが、健康・余暇分野について言うと 20 ページのところにございますが、このいわて幸福関連指標の状況ということで現状値と、それからＨ30 の値が載っています。これを比較して上昇、下降の指標の数をカウントしておりますけれども、下降の指標は余暇時間、８番と 11 番、生涯学習に取り組んでいる人の割合ということでカウントしてございます。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。これを各政策分野ごとにまとめたのがＡ３の方の資料だということですね。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　確認ですが、健康・余暇は健康寿命とがん、心疾患のところはそれぞれ２つに構成されているのだけれども、表記上は９指標という形にしているということですね、11 あるのだけれども。

○北島政策推進室評価課長　指標は 11 個ですが、７番の地域包括ケア関連と 10 番のスポーツ実施率の現状値が 30 年度の値となっており、表では前年度と比較ができません。新しい計画がスタートして 30 年度の目標値がなく、今年度は達成度が出ませんが、いわて幸福関連指標が注目されていることなどからも、概要版、本体ともに、いわて幸福関連指標の

動きを事実として記載することにしたものです。

○吉野専門委員長　なるほど、わかりました。つまり、上昇や下降が計測できるものについて計測すると９指標で計測が可能であって、そのうちこの分野については２指標が数字上は下降しているというふうに記載しているということですね。これが今申し上げたとおり各政策分野 10 についてそれぞれ何個、何個というふうに数字を掲げていくということですね。これが新しい政策評価レポートの中に書き込まれていくということでよろしいですね。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。
　確認が終わりましたので、西田委員からお願いします。

○西田委員　お伺いしたいことの１点目は吉野先生と同じだったのですけれども、概要版の課題と今後の方向の各政策分野の１行目のところに書いてある上昇とか下降とかという幸福関連指標と本体との関連を説明していただかないと読み解けないと感じました。特に下降の分については各政策分野の概要版の下の御説明のところ、これからこういうことに取り組んでいくと記載しているところで、下降している分についての説明と、それからほかのものについて混ざって書いてありまして、そうすると読み取りにくいというところがありまして、本体との関連での読み取りにくさというのと、それから概要版の中での読み取りにくさというのを少し感じました。
　それでお伺いしたいのは、今回幸福関連指標が計測できるものでカウントなさったということなのですけれども、この指標を概要版に使っていくのは今回だけということなのでしょうか。それで、だから何か今回みたいな書き方になったというふうに思えばいいのか、その辺のことを教えていただければと思います。

○北島政策推進室評価課長　今のこの指標、幸福関連指標の記載の考え方ですけれども、資料１の２ページをお願いします。こちらは指標の達成度を測ることができる令和２年度以降の政策評価レポートのイメージなのですけれども、左上にありますとおりいわて幸福関連指標の達成度ということで円グラフを掲載していますけれども、達成度が出てきます。次に課題と今後の方向のところを見てほしいのですけれども、こちらに指標の動向の記述は載せないで、達成度で示しているということになります。今年度は過渡期ということで、達成度が出ませんでしたので、事実として指標の前年との比較を載せているという整理にしております。
　それから、概要版だけを見たときにその指標が意味している内容がよくわからないというところはおっしゃるとおりでありますし、それから本体のレポートを見ても下降したものがあって、下降したものについてどう取り組んでいくのかというところの関係性が見えないというところがあるのですけれども、事務局として考えているのはまず指標の動向を事実として記載をし、課題と今後の方向は政策分野を取り巻く状況などを踏まえて記載を

すると整理しております。さきほど健康・余暇の生活習慣病の話ですとか、自殺死亡率の話をしていますが、政策分野を取り巻く状況などを踏まえて課題と今後の方向を整理しているということです。

○吉野専門委員長　そのほか御質問あるいは御意見ございますか。わかりにくいところでも結構ですけれども。

どうぞ、工藤委員。

○工藤委員　感想というか、0.何％、１％とかでも上昇すれば上昇だし、下降すれば下降するということで、あくまで事実としてそうなのですけれども、としか書きようがないと思いつつも、単純に何が何個上昇していて、何個実施数が下がるという表記だとそこの数字というのはわからないけれども、こう書きようにしかならないのだなというのを見ながら感じていました。難しいところですね。

○北島政策推進室評価課長　前年度との比較で上がった、下がったということだけでなく、中期というか、４年とか５年とか６年見てみないと本当はわからないことなのですけれども、幸福関連指標が注目を浴びているので、このように記載したということになります。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。

そのほか御質問あればお願いします。

もう一つ、西田委員からも出ましたけれども、今年度については評価ができないというか、まだ終わっていないので、政策評価レポート、実施状況報告書については本当に今年度のバージョンが１回あるだけで、来年度以降からまた書き方を変えていくというような認識でよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、資料１にあるものが令和２年度以降の様式のスタイルになっていますので、これに沿って来年度はつくり込む予定となっていまして、今年度はイレギュラーです、過渡期ということで御理解いただきたいと思います。

○吉野専門委員長　この円グラフがまだ作れないということですよね。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　本当は円グラフを作りたいのだけれども、数値が固まっていないというか、まだ過渡、途中だということなのですね。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、目標値の設定が平成 31 年、令和元年度になっていますので、出せないということになっています。

○吉野専門委員長　まだやっている最中と。

○北島政策推進室評価課長　はい、やっている最中ということです。

○吉野専門委員長　ただ、この様式を新しい計画に基づいて様式を作るので、様式はもう箱ができているのだけれども、中身を盛り込む評価、数値がまだやっている最中だから、今年に限っていえばこの資料２のような記載でいきたいということでよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　そのときにどうしても使うのが今御質問もありましたけれども、いわて幸福関連指標の動向をまずは各政策分野において載せていくというスタイルで今年度に限ってはやりたいということでよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　そのほか御確認でも結構ですけれども、いかがでしょうか。
　西田委員。

○西田委員　もう少し質問させていただきます。
　まず、概要版ではなくて本体の方の政策評価調書の政策分野の方の網かけで、ページでいいますと 15 ページのところに解説があるようなのですが、県民意識調査の状況の比較の読み方なのですけれども、上昇、横ばい、下降の指標が３ポイントというのが決めてあるわけなのですが、県民意識調査というのはそもそも何人の方にやっておられて、それで３ポイントの差というのが統計的に見てここで区切れるというのもお考えになったのかというこのあたりのことを教えていただければと思います。

○和川政策推進室主任主査　県民意識調査について御質問をいただきました。県民意識調査、毎年 5,000 人を対象に調査をしてございまして、おおむね 3,000 人程度の回収を得ているところでございます。今回３ポイントで区切った根拠ということですけれども、おおむね５％水準のｔ検定をしたときの有意に差がとれる水準は大体３％、プラスマイナスで３％というところにございましたので、そこで区切って今回おおむね３ポイント以上というところでしきい値を設定したということになります。

○西田委員　回答が 3,000 人ですか。

○和川政策推進室主任主査　はい、回答は 3,000 人になります。

○西田委員　配布自体はないのですか。

○和川政策推進室主任主査　配布は 5,000 人になります。

○吉野専門委員長　もう一つ、はい。

○西田委員　済みません、もう一つお願いします。アクションプラン構成事業 698 事業ありまして、概要版でいいますと３ページ目の左側の方ですけれども、これで活動内容指標と成果指標の達成度を見ておられると思うのですが、拝見しますとＡが半分以上になっていますので、関連性はあるのだろうなと思うのですが、一方で、例えば活動内容指標はＡなのだけれども､成果指標はＣになっているのです｡そういうパターンもあるようですが、指標の数が各事業によって違うので、余りはっきりしたことは言えないのかもしれないのですけれども、活動内容指標の方はＡなのだけれども、成果指標の方がＣだという項目の場合に、そこの差を埋めていくために県としてできることというのは、例えばどういったことがあるというふうにお考えになっておられるのかというのを教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○吉野専門委員長　事務局から。

○北島政策推進室評価課長　ちょっと具体的に見ていきたいと思いますが、例えば 297 ページの番号が（114）の芸術活動支援センター設置事業費、こちらの活動内容指標がワークショップ開催回数がＡとなっており、成果指標が参加者数Ｄということになっています。評価結果が活動指標がＡで、成果指標がＣになっているということで、このＡとＣの間を埋めるために今後の方向のところにあるとおり、例えば開催に当たっての広報が十分でなかったという反省点を踏まえて、今後どうやっていくというような整理の仕方をしております。それを一つひとつの事業で今後の方向を整理していくということになります。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。

そのほか御質問いかがでしょうか。

では、またちょっと確認ですけれども、このＡ３の概要版のめくっていただいて２枚目の事務事業評価実施状況、今のと関連しますが、698 の事業について、これは評価をしているということになりますけれども、Ａ評価は 100％で、Ｂは 80 で、Ｃは 80 未満ということですよね。活動内容も成果指標もともにＡであればこの青いところに入ってくるということでよろしいですね､円グラフの中でね｡それで､一番最後のところにその他 80 事業、これですよね、このその他というのは青にも、肌色にもピンクにも該当しないというような意味であると思うのですが、例えばどういうものがあるのですか。

○北島政策推進室評価課長　この表の※印の１に書いてあるのですが、このその他については現時点で指標の実績が不確定な項目となっています。

○吉野専門委員長　ある意味では、評価が難しくてできないと、Ａ、Ｂ、Ｃがつけられないと。

○北島政策推進室評価課長　つけられないということ、結果が出ていないということです、現時点で。ということになります。

○吉野専門委員長　それが大体 10%ぐらいあるということですね。これは、いずれは評価ができるので、解消していくというふうに考えてよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、わかった時点で取り込んでいって、２月の反映状況の報告の際には取り込んでいきます。

○吉野専門委員長　そうすると、この 11 月の時点だとこういった円グラフになりますよと。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　ただ、いずれこれその他のところは評価出てくるから、確定値出ますので、それを踏まえると少し円グラフの構成が変わる可能性がありますということでよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　そのとおりです。

○吉野専門委員長　わかりました。一番いいのはともにＡ、当然ながら活動内容指標も、成果指標も 100%になっていればＡになるので、これが一番達成したということになるわけですけれども、これが大体半数ぐらい、今の時点ですと半数ぐらいというのはちょっと今年の新しいデータについてはこうなのですけれども、過去のデータはよく覚えていないのですけれども、この辺はどうなのですか、ＡＡが半数ぐらいというのは多いのか少ないのか、端的に言えばですね、ちょっと急な質問で申しわけないのですけれども。
　つまり、当該年度の中で言えば半分はＡＡなのだから、まあ、いいのではないかという評価も可能ですよね。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　あるいはＡ、Ｂ足せば 75%ぐらいありますから、それにその他のところが今度数値確定すれば出てきますから、もうちょっと上がるという意味では、今回の評価についてはまずまずというふうにも言えますけれども、この構成比自体が過去の中でどのぐらいの水準なのかと。

○北島政策推進室評価課長　昨年度ですけれども、ともにＡが 56.8%となっています。

○吉野専門委員長　確定値でね。

○北島政策推進室評価課長　はい。ともにＢ以上の割合が 79.7％ということで、今回75.1％ということですので、大体こういう数字になっています。ともにＡであるというのはいいことなのですけれども、いいものは維持したり、引き上げていくということが大事ですし、大事なのはＣとかが出たところについては、やっぱりそこをきちんと要因を分析して、次の取組につなげていくというのが大事だし、評価やっている目的がそこにあると思っています。

○吉野専門委員長　裏表の関係だから、Ａが増えるということはＣが減るということですから、当然ながらＡとともにＢ以上が増えていくことが最終的にはＣを減らしているというふうに解釈して、評価に耐え得るような成果を出しているということですが、事務局サイドとしてはやはりＣが残ってしまうのが何とかこれを解消していきたいというような希望というか。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、できるだけＣはなくすようにしてほしいのですが。

○吉野専門委員長　ただ、それでも十数％、今年度については残りそうだということですかね。これが究極的にゼロになるのがいいのですかね。

○北島政策推進室評価課長　目標値の設定に当たっては、適当にやってもＡになるような目標値を設定しているわけではないので、頑張ってＡになるような目標値を立てていますが、Ｃがなくなるよう取り組んでいきたいと考えています。

○吉野専門委員長　Ｃ評価のものについてはきちんと要因を分析して、どうしてそうなってしまったのかということをＰＤＣＡですよね、きちんと明らかにした上で、来年度はＣにならないように目標の設定とか、あるいは手法とか、計測とかを見直していこうという不断の努力をＣのところにはぜひしていただきたいというような意味としてあるということでよろしいですね。

○北島政策推進室評価課長　はい、そうでございます。

○吉野専門委員長　わかりました。ありがとうございました。それが、でも数は当然減る方がいいわけですよね、ゼロにはならないかもしれないけれども。余りゼロにするとそもそも目標値が低かったのではないかというような恐れもあるということですね、わかりました。

　そうすると、逆にこの一覧表を見るといずれかがＣが多い分野というのは、これぱっと見ることは可能ですか、Ｃを含むというところを見ればよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　そうですね。

○吉野専門委員長　Ｃを含むというところを見ると、これ指標数はそれぞれ分野によって違いますから、絶対数だけ見るわけにもいかないですけれども、やっぱり健康・余暇の部分はどうしてもともにＣが多いというふうに解釈してよろしいですか。

○北島政策推進室評価課長　この表を見るときに、この右側のともにＢ以上の割合とあるので、これの裏というか、健康・余暇だと３割がＣなどとなっています。

○吉野専門委員長　何かＣがついてしまうと。

○北島政策推進室評価課長　Ｃ評価についてはそうなります。

○吉野専門委員長　むしろ健康・余暇は中くらいということですね、例えば 60％台や 50％台が出てしまうと、やっぱりなかなか達成していないというふうに逆に解釈できるということですか。

○北島政策推進室評価課長　126 の指標があって、そのＣを含むだけ見ると 27 で多いのですけれども、Ｂ以上の割合を見ると３割で収まっているということになります。

○吉野専門委員長　もともと指標数が多いから。

○北島政策推進室評価課長　はい、そういうこともあります。

○吉野専門委員長　難しいところですね、解釈とすれば。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、仕事・収入も 20 で多いですけれども、230 ありますから、ともにＢ以上の割合除きでいうと 15 となります。

○吉野専門委員長　そう、悪くはないのですけれども、ただこの指標の数だけ見ると達成していない部分が、数としては残ってしまっているではないかというような御指摘が来たときに、ではこのパーセントは大丈夫だけれども、やっぱりこの健康・余暇や仕事・収入というのはかなり生活の根幹にかかわるところだから、ここにどうしても一定数の未達成のものが残されてしまうということ自体は質的に見ると何か解消してもらいたいなという気はするのですが、いかがですか。

○北島政策推進室評価課長　おっしゃるとおりだと思います。Ｃを含む事業について、その指標の結果を、達成度を上げていくということが大事になると思っております。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。確認でした。

○工藤委員　具体的な数字の方が後半 270 とか 267 でしたか、260 ページ以降とかに書いてあるのを見ると、Ａになっているのだけれども、極端に目標が大幅にクリアしていて、そもそもの目標値が低いのではないかというものも幾つか見えているので、そういったときは今現在のＣをＢにするように、またＤを上に上げるようにいろいろな政策をされるということであれば、実際Ａの目標をもう少し高くするような指導もされるという感じなのでしょうか。

○北島政策推進室評価課長　事務事業については、単年度ごとに目標を設定しますので、平成 30 年度は大幅に目標を達成したという場合は､そういった状況も踏まえながら翌年度の目標値を設定しています

○吉野専門委員長　あと何か気になる具体的な数値はございますか。

○工藤委員　かなり数字に大きい差があるなとか、ゼロになっているなと。ぱっと見ただけだと、例えばですけれども、107 番の事業とか、文化スポーツ、これも目標値、体験イベント来場者数が 1,000 になっているけれども、ほぼ 5,000 人に近い状態になっているとか、目標見誤りというところもあるかもしれないですけれども、思ったより来てしまったということがあるかもしれないのですけれども、今ぱっと見たところだとそういうものなのですが、何か数字が割と低く見受けられているの、これのほかにもかなり差があったものが、中にはそういうものもあるのだろうなと思うと、目標を見直してもよろしいのかなと思います。逆にＤになっていて、だけれどもそもそもそういう目標値でいいのかというのも中には逆もあると思うのですけれども。

○吉野専門委員長　はい。

○北島政策推進室評価課長　例えば今の体験イベント来場者数ですけれども、当初見込んだ数よりかなり多くなっていますけれども、特殊要因があったのかどうか。いずれこういう数字が出てきたときに達成あるいは未達成、なぜそういうことになったのかという分析を行って、それを踏まえた毎年度、次年度の目標の設定や取組の内容改善などもしていくということをしてございます。

○吉野専門委員長　事務局側としても幾つかそういうことは把握されていて、もう既に平成 30 年のときにかなり高い数字を出していただいていて､次の新しい計画の目標値もう超えてしまっているような実績値を出している項目については、恐らくどうしようかというか、計画目標値自体を変えるのか、あるいはちょっと何か別の考え方を入れるのかというのも確かに幾つかあるのかなと思っては見ていました。例えば文化とかスポーツの中で、お手元にある資料でいいますと、例えばスポーツの施設の入場者数で県及び県内市町村の公立スポーツ、レクリエーション施設の入場者数は既に実は令和４年の数字を超えているようなＨ29 が 805 万人なのだけれども、Ｈ30、平成 30 年では 811 万人が既に達成していてというふうな数字はあるはずなのですけれども、ただし令和４年の目標値 806 万人とい

うふうに見ていくと、もう既に達成してしまっているような数値に、指標については単年でですから、上がり下がりがあるから常にこの数字を来年も確定できるかということはないかもしれませんけれども、そういった場合はどんどん目標に近づいていくというよりは、もう既に達成しているので、それがキープできればいいというような考え方をするのか、それとも目標値はちょっと低過ぎたので、もっともっと高い目標値をつくってやっていくか、そのあたりは何かお考えありますか。

○北島政策推進室評価課長　補足説明ですが、さきほど毎年度、毎年度の目標を見直すというのは事務事業評価の件ですが、今のお話は、いわて幸福関連指標になります。いわて幸福関連指標は毎年度目標を直すということではなくて、政策推進プランで４年間の目標値を設定しています。

○吉野専門委員長　御説明どうぞ。

○中村文化スポーツ企画室企画課長　文化スポーツ企画室、中村です。

今御質問があったスポーツ施設入場者数の考え方、当部でも現状値あるいは計画目標値超えているというのは理解していまして、そこの分析もしております。理由を申し上げれば被災した沿岸の体育施設等が文化施設も含めてなのですけれども、施設が復旧しているというのが若干ありまして、それで昨年度復旧した施設などの関係で当初の見込みより利用者が増加しているという部分がございます。ただ、当部で入場者数の目標値を設定するときに、基本は少子化の傾向があるので、入場者数は余り増えていかないだろうという前提で現状値を維持していくような目標値を設定していました。昨年度は復旧されたばかりということもあり、たまたま増えただけかもしれないので、推移を見ながら目標値については考えていきたいと思います。この幸福関連指標については今設定している現状維持をできるだけ維持していくという方向でいきたいと考えていました。

○吉野専門委員長　わかりました。ありがとうございました。幾つかそういった現状維持が全体の人口が減る中で、現状維持することが一つ価値があるのだというような考え方に基づいた目標設定も、ほかの部門でもありますけれどもね。ただ、いろんな社会的要因によって一時的な上げ下げは出てくるだろうと。

今言ったいわて幸福関連指標については、数値目標自体は動かさないので、これは現状を分析してもらうという形になるのですけれども、事務事業評価の方は、先ほど課長さんおっしゃったように見直していくことが可能であると、２つあるというふうに考えてよろしいですかね。

ちょっと複雑ですけれども、今の御説明でおわかりいただければなと思います。

そのほか具体的な数値の動きについて、せっかく今日は担当の各部署からも来ていただいていますので、この際もう一回確認したいということでも結構ですけれども、何かございますでしょうか。

○西田委員　今の話とは少し離れるのですけれども、クロスファンクショナルチームというのを新しい総合計画と評価の体系をおつくりになって始められたということで、先ほど最初の御説明のときに課長から健康・余暇分野に関してどういった効果があったのかというようなところの御説明いただいたかと思うのですけれども、例えば政策分野の 10 の参画というこのあたりはいろんな担当課が関係するところかなと思うのですけれども、クロスファクショナルチームではどういう効果が感じられたかといったあたりを教えていただければと思うのですけれども、時間かかって大変だみたいなそういう感想等ありますでしょうか。

○吉野専門委員長　そんなマイナスの評価はないと思いますが。

○西田委員　何かメリットが感じられたのかというあたりを教えていただければと思うのですけれども。

○吉野専門委員長　非常に珍しい取組でしょうか、部局を越えてプロジェクトチームのような形にしていただいて、評価までそれを議論していただくという形で、設置をされて、今１年ぐらいたつのですか、どのぐらい。

○北島政策推進室評価課長　10 月に設置をしております。基礎資料の（６）を御覧ください。

○吉野専門委員長　一覧表が載っていますね。

○北島政策推進室評価課長　はい、一覧表が載っていまして、分野ごとに、例えば健康分野ですと政策地域部、文化スポーツ部、保健福祉部、農林水産部、教育委員会ということで複数の部局が構成する組織体をつくって検討しました。今回は１分野当たり１時間という時間を区切って議論をしたわけですが、さきほども説明したとおりで、政策分野における課題の抽出がこれでいいのか、ほかの課題がないのか、政策分野と政策項目の整合性がとれているのかとか、議論が結構深まってよかったなと思っております。

○吉野専門委員長　幹事部局の方々もきょうおいでになっているから、せっかくだから生の声も聞いてみましょうか。では、今の健康・余暇分野というのは５つの部局にまたがって、保健福祉部さんが幹事部局さんをお務めになっていますけれども、保健福祉部さん、これわかる方いらっしゃいますか、どんな感じだったかとか。

○阿部保健福祉企画室企画課長　保健福祉企画室の阿部と申します。
　健康・余暇もいろんな分野にまたがっておりましたので、単に書面だけでやりとりするのではなくて、それぞれの部局の担当の方に来ていただいて、いろんな現況とか生の声をお聞きすることができて非常に有意義だったと感じております。

○吉野専門委員長　ありがとうございます。
　あとは部局がたくさんにまたがって、参画とちょっと先ほど出ましたけれども、参画の分野は一番最後ではありますけれども、８部局にまたがって環境生活部さんが幹事さんですけれども、やってみていかがでしたか。

○戸田環境生活企画室企画課長　環境生活企画室の戸田と申します。
　参画の方は、環境生活部が幹事部局ですが、基本的に参画というのは県のさまざまな事業で展開していくべきものでございまして、我々だけでやるものではないですから、そういう意味でもこういう形で顔を合わせていろいろ議論しながら、一緒にやっていくというところを調整する面でも効果があったと思うので、非常によかったのではないかと思います。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。それから、表を横に見ると部局別にいろんなのに入るのですが、たくさんの政策分野に入っている農林水産部さん８つもかけ持ちして頑張っていらっしゃいますけれども、農林水産部さんはこの８ついかがだったでしょうか。大変だったと思いますけれども。

○米谷農林水産企画室企画課長　農林水産部ですけれども、産業振興という切り口だけではなくていろんな切り口があります。地域の活性化や交流人口を増やすなど、そういった意味では各部局さんの方に深く入り込んでいろいろと意見、議論を交わせたということは有意義だったと感じております。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。
　大体お話聞きましたけれども、いかがでしょうか。よろしいですか、何かこういうふうにしたらいいとか、先生。

○西田委員　大丈夫です。

○吉野専門委員長　大丈夫ですか、これは１回やって、またもう一回やるのでしたか。

○北島政策推進室評価課長　今年度はない見込みです。

○吉野専門委員長　ない見込み、ただ今年度限りではなくて。

○北島政策推進室評価課長　ではないです。４年間を想定しています。

○吉野専門委員長　最低でも年度に１回は集まっていただくと。

○北島政策推進室評価課長　はい。

○吉野専門委員長　では、農林水産部さんは８回出てもらうので、８回ということですね、これは。御苦労さまでございます。よろしくお願いします。ありがとうございました。
　これは新しい取組で、これが評価に反映できればいいと思います。

○北島政策推進室評価課長　そうですね、今回は政策評価という視点で議論しましたが、政策評価を受けて、次の施策の推進、どうやって取り組んでいくとかという議論につなげていければいいと思っています。

○吉野専門委員長　基本的にこれまでは余りこういったタイプの会議の持ち方はされなかったと。

○北島政策推進室評価課長　縦割り、部局割りでの議論が多かったのではないかと思います。

○吉野専門委員長　では、新しい取組でまず１回やってみたというところですね。ありがとうございます。
　そのほか御質問いかがでしょうか。今回の評価は、先ほどのお話のとおりまだ 31 年度の実績が上がっていない中で評価をつくるわけですから、暫定的にといいましょうか、今年度の書式に基づいてなさって、来年度以降はこの形になるということです。今年度のイレギュラーな形での議論になりますけれども、政策が続いていきますので、今年度に数字が出ているもので、いい数値が出なかったのも幾つかあると思うのです。第１回委員会でも話しましたが、県民は、医師の確保などに関心が高いと思いますが、これについて何か保健福祉部さん、医師の確保については何か今度こうやっていきたいというような見通しは立ててますか。

○阿部保健福祉企画室企画課長　医師の確保については、今年度これから４年間の医師確保計画を策定することとしていますので、その中で実効性のある計画を立てていきます。ちなみに、今年度発表されました医師の偏在指標で岩手県は暫定値で最下位だったのですが、

○吉野専門委員長　最下位、つまり都市に固まり過ぎていると。

○阿部保健福祉企画室企画課長　９月の補正予算で新潟県と岩手県、その他の医師少数県と連携して、様々な国の制度改革と情報発信の事業を岩手県だけではなくて医師少数県と連携して取り組んでいこうということで、医師の確保というのは単独の県だけの取組ではどうにもならないということが多々ありますので、そういったところで連携して、国全体として偏在をなくすといった取組をこれから進めていこうと考えています。

○吉野専門委員長　そうすると成果指標は上がってくるはずだと。

○阿部保健福祉企画室企画課長　上がればいいと思っています。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。各大学さんとの連携もかなりあるのですか、派遣してもらう、もらわないというような。

○阿部保健福祉企画室企画課長　そうですね。

○吉野専門委員長　行政間の連携はもちろん今お話あったとおりですけれども。

○阿部保健福祉企画室企画課長　大学については、本県の場合はどうしても岩手医大が中心になります。あと東北大学からも２人奨学金の枠を設定しているのですけれども、医師も徐々に働き方改革が進んできて、その取組が進みますと、先般の医療審議会の中で、今の３倍か４倍の医師が必要になります。

○吉野専門委員長　３倍ですか。

○阿部保健福祉企画室企画課長　本当の意味での医師の働き方改革というのはなかなか難しいという話なので、例えば将来医師を目指す子供、中学生あたりから取組を始めるとなると、保健福祉部だけではなくて教育委員会とも連携しなければいけないですし、そういった取組は、なかなか大変ですけれども、頑張るしかないと思います。

○吉野専門委員長　目標値は新しいのが出ていますので、達成できるようにお願いしたいと思います。

　そのほか各委員でもお気づきの点があれば伺ってもよろしいですが、いかがでしょうか。

　もう一つ、大学関係者なので、どうしても県内就職というか、人材育成の面で、私たちも頑張っているところではありますけれども、検討されても県側から見てもさまざまなエンカレッジというか、奨励策をとっていると思いますが、第１回委員会も出ましたけれども、県内大学生等のインターンシップ参加者数なんかはなかなか進捗率が上がっていないのが現状ではありましたけれども、これについては今後何か新しい取組を目指しているとか、何かいいプランがあれば教えていただきたいなと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○鈴木政策推進室調整監　すぐこれこれと申し上げることはちょっと困難なのですけれども、この評価結果を踏まえて、今週県では知事への業務説明という、ちょうどこの時期に知事に対して来年度これをどう取り組むかというのをプレゼンする会議がありまして、その後今月末までに予算要求ということになっていますので、その中でそれぞれの指標、県内就職率なり、インターンシップの数なり、そういったものをどう上げるかというのを各部局検討したものを予算要求する段階になっていますので、具体な取組はもう少したってからになります。

○吉野専門委員長　なるほど。前向きなプランは持っていますと。

○鈴木政策推進室調整監　そうですね、全く同じということではなくて、中身は変えて、それぞれの各課、各部で取り組んでまいりますので、そういった流れの形になっております。

○吉野専門委員長　ありがとうございます。こういった評価の結果というのは、今お話のとおり次の年度の予算要求にどう持っていくかということにかなり直結すると。さらに、それは責任のある方々にご説明されて、きちんと理解いただければ載せられるのでということで、こういった成果指標というのは、部局にとってみればどういったポイントの予算づけするかにかなり使っていると考えてよろしいですか。ありがとうございました。放置しているわけではないですよということですね、ありがとうございます。

そのほか何か御質問いかがですか、遠藤委員はまだ御発言ないですけれども、いかがでしょうか。

○遠藤委員　ちょっと気になったのは、大変細かくてあれだったのですけれども、291 ページにありますか、児童生徒の育成のことなのですけれども、評価結果がＣになっています。相談にかかわることなのですけれども、目標数より３人少なかったと書いてあるのです。そして、何に対しての３人少なかったものかなと思ってあれしたのですけれども、こういう学校心理士ですか、資格を取得する方というのは今学校にいろいろさまざまございますので、そういうのというのは必要だなというのを常日ごろ思っていまして、こういう心理士資格というものはどういう養成を受けて、１年ぐらいの勉強になるものか、３年そういうお勉強をして資格を得るものなのか、どういう状態なのかと思いましたので、質問してみました。

○吉野専門委員長　これは担当部局にお願いします。

○大畑教育企画室教育企画推進監　教育企画室大畑でございます。

目標値より３人少なかったというのは８人を目標としたものですが、総合教育センターで１年にわたって長期研修を受けていただくという形のものでございます。８人募集した結果、５人の先生から手が挙がって、目標に対して３人少なかったというところであります。教育相談にかかわる心理士ということで、基本的にはスクールカウンセラー等を配置して対応しているわけですけれども、どうしても岩手県の場合はその人材を確保することが難しいという部分もございますので、教員の皆さんにそういった心理士としての資格を持っていただいて、先生方にそういった対応をしていただくというようなことを考えて、こういう形の研修、それから学校心理士の資格を取っていただくという取組をしてございます。

一方で、なかなか学習指導要領も変わりまして、学校の先生方、長期１年間学校現場を離れて総合教育センターで研修を受けるというのはなかなか難しい状況にございます。そういったところの人員のやりくり、定数の加配、加えるということですね、定数の配分等

をきちっとやりながらそういったところをフォローしつつ、研修に参加できやすい環境をつくっていくということも大切だと思っております。いじめについては、些細なことでも受けた側が心理的に負担と感じれば、積極的にいじめと認知する方向であり、どうしても増加傾向にあるのですけれども、一方で不登校が増加しているという部分については、さまざま背景があり、学業であったり、家庭であったり、友人関係であったり、あるいは先生との関係であったりとさまざまございますので、やっぱりそういうところは心理士の資格を持った方々がきちっとサポートしていくということが大切だろうと思っております。いずれ、スクールカウンセラーの配置あるいはスクールソーシャルワーカーの配置、それからこういった学校の先生方に心理士資格を取っていただくということを進めながら学校、それから総合教育センター等の教育相談の体制、そういったところの充実に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。よろしいですか。
　これ１年間研修というのは、完全に現場を離れて研修という形ですか、かけ持ちですか。

○大畑教育企画室教育企画推進監　基本的には離れていただくことにはなります。

○吉野専門委員長　つまり、その予算づけをしてあるということですね、８人というのは。

○大畑教育企画室教育企画推進監　そうですね。

○吉野専門委員長　加配という部分の。

○大畑教育企画室教育企画推進監　加配をしつつ、学校を離れて総合教育センターで研修をしますので、離れた分を学校に措置しながらやりくりするということではあるのですけれども、先生方個々教科を持っていらっしゃいますし、そういったところでなかなか難しいというところもあります。ですので、いずれそういったところを校長先生はじめ組織全体としての理解は必要だというふうには思っておりますので、そういったところの理解もを進めながらやっていきたいと思っております。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。目標８人に対して実績が５人でしたっけ、そうするとマイナス３だから今後は目標を 11 にするのですか、そういう調整はしないと。

○大畑教育企画室教育企画推進監　目標値の設定についてはこれからであります。

○吉野専門委員長　わかりました。ぜひ受けやすい環境醸成というのでしょうか、環境の整備も含めてよろしくお願いします。ありがとうございます。
　そのほかお気づきになって、ちょっと詳しく聞きたいというのも含めて結構ですけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。

○工藤委員　済みません、どこになるのかはちょっとわからなかったのですけれども、公共交通に関する何か施策というのはあるのでしたか、盛岡だけではなくて、岩手県内結構広くて、移動するのにバスもそうですし、電車もそうなのですけれども、盛岡でさえ運転士の方が少なくなってしまって、バスの本数が少なくって、結構まちなかで集中しているところもあれば、バスの数が減ったりとか、観光客なのか、一般なのかわからないですけれども、でんでんむしみたいなのがあったりするのですが、あれも本数が減ったりだとか。

○吉野専門委員長　夕方便はなくしましたね。

○工藤委員　はい、減ったりとかいうふうに多分人口が減っていくに当たって、そういう働き手が少なくなったりしているのではないかと思います。

○吉野専門委員長　運転士もいなくなると。

○工藤委員　はい、そういうのに関連した施策というのは何かあったりするのでしょうか。

○吉野専門委員長　はい。

○鈴木政策推進室調整監　政策地域部でございます。政策地域部内に交通政策室がございまして、今の御質問のポイントはバス交通という観点になろうかと思いますが、バス事業者はそれぞれ民間でございますけれども、各市町村に対し、それぞれの市町村ごとの計画を立てるよう指導・助言しております。また、事業者に対し、それぞれ赤字路線ございますので、そういったものの補填といいますか、補助といいますか、そういったものも実施しております。なので、それぞれの地域、市町村単位でどういう公共交通がいいのか、地域の住民の皆さんの足をどう守るのか計画を立てていただいて、それを守るため路線が黒字であればいいのですけれども、補填が必要なものは国庫補助等々も活用しながら、県としてもそういった路線維持のために補助するような形で公共交通の維持、確保に努めているという考え方になります。

○工藤委員　公共交通に関しては、多分そのとおりで、市町村の裁量、判断というのも結構あるかと思うのですけれども、先日実は函館に行って交通に関するのをちょっと見てきたのがあって、バスだけだと空のバスが動いてしまって、だけれども必要なタイミングにいないとか、いろいろあったということで、今対応しているのがタクシーとかをバスのように共同で乗り合いができるような仕組みというのを、サービスを始めているところがあって、函館の未来大学とか一緒になってやっているものもあるらしいのです。実際に岩手県では矢巾がそういうのの実証実験をしているということだったのですが、そういう情報とか、人口に対する何とかに合った補助があったり、または情報があったりするとより住みやすい環境ができてくるかもと思ったところがありました。情報だけです。

○吉野専門委員長　何か新しい動きはありますか。

○鈴木政策推進室調整監　具体的なお話はしかねるというか、まだ検討というか、研究段階でございますけれども、おっしゃるとおり５ＧとかSociety5.0という世の中になってまいりますので、ＡＩも活用しながら、それぞれの条件不利地域、中山間地域で、そういった新しい公共交通の運行の仕方というのはモデル事業、研究事業等々一部やっております。そういったものの先行事例等があればそれを県内に普及する、定着させるような検討といいますか、研究といいますか、そういったものもやっております。そういったものを通じて、人口減少社会においても地域公共の足を守るような、確保できるような取組をしているという段階でございます。

○吉野専門委員長　ありがとうございました。

そのほかお気づきの点あればお願いしたいと思います。

では、私ももう一つ、261 ページにあるアクションプランの達成状況ですけれども、その中で 39 の政策項目の中の 345 の推進方策の番号ですけれども、不特定多数の方が利用する公共的施設のバリアフリー化率というのはなかなか進んでないようにも見えるのですが、これは何か改善策とか、新たなプランの中でこうしていくというようなお考えがあればお聞きできればなと思って質問しましたが、これ担当はどこになりますか、県土整備部ですか、はい。

○菊地県土整備企画室企画課長　県土整備企画室です。

前回の委員会でもいろいろと質問をいただきましたが、なかなか整備基準項目がさまざまありまして、車椅子の駐車場とか、車椅子のトイレとかオストメイトとか、点字用ブロック、階段の上がったところとか、踊り場とかといったような部分に整備をする必要があるということで、直ちに実現困難な項目もあり、設置者や建築主の財政的な部分が大きくて設置が難しいといったようなことがございます。バリアフリーに関しては一般の方も関心が高かったり、あるいはこれから高齢化社会への対応の部分とか、あるいは東京オリンピック・パラリンピックの開催もありますので、社会全体でバリアフリーへの関心、需要が高まってくる要素があるということで、そういったところを周知をしながら取組をしていきたいと考えております。

○吉野専門委員長　わかりました。では、引き続き課題としては残っていますので、実際住みやすくなるようにというか、改善されるように次の計画で進めていただければなと思います。

そのほかお気づきの点ありますか、よろしいですか。

西田先生いかがですか。どうぞ。

○西田委員　お金に関することをお伺いしたいのですけれども、事務事業の各欄拝見しますと、特に復興関係の事業で国庫だけで対応なさっているものというのがかなりあるのかなと思います。それで、建設系のものであればその事業が終われば、それで終わりという

ことで、あとはメンテナンスとかで県の方のお金が必要になるのだと思うのですけれども、例えば災害公営住宅に入居なさった方のコミュニティ形成支援だとか、あとは高齢者の見守り関係だとか、こういったところは国のお金で措置しているところだと思います。それで、住民の皆さんのエンパワーメントが大事だというようなことで、いずれその支援がなくてもやっていけるようにというお話がよくあると思うのですけれども、入居者構成などを見ますとなかなか難しいということもあるのかなと思うのですが、それでも国のお金は今後縮小していくのではないかと思うのですけれども、この辺の復興関係のお金が切れたときに事務事業としては廃止になっていくのか、終了になっていって、ほかのに統合するというような道筋みたいなものをもうそろそろお考えなのか、今はまだそういう話は早いと言われるかもしれないのですけれども、もし何か動きがあれば教えていただければと思います。

○吉野専門委員長　これは復興局、担当の方いらしていますか。
　では、お願いします。

○菊池復興推進課主査　復興局復興推進課でございます。
　国の方で来年度まで復興期間と定めて基本的に復興事業は国費でやっていくような形になってございます。国では、今年中をめどにその後、復興・創生期間後の復興事業の財政のあり方も含めた支援スキームを今検討しているところでございます。
　先週にその骨子案が国から示されておりまして、その中では残された一部のハード事業は引き続き宮城と岩手の事業については５年間で完了を目指す形で引き続き国の財源を使ってやっていく方向性が示されました。その中には、委員ご指摘のコミュニティ形成支援であったりとか、被災者の見守り事業とか、その辺も盛り込まれているところでございます。今の復興事業につきましては、復興推進プランという形で、こちらの政策推進プランとまた別のアクションプランの方で取組をさせていただいておりまして、復興事業については、事務事業評価の流れの中とまた別の形で基本的にはハードを中心としてやりきるというような事業でございまして、評価というよりは進捗管理というところに重点を置いた評価の方をしながら進めておるところでございます。
　その後の話ということでございますけれども、基本的に復興の先を見据えた施策、地域振興とか、復興に係る国費を使わないような地元でやっていくような事業につきまして、その過渡期という部分もございまして、復興推進プランに、復興事業だけではなくて、その中に政策推進プランと同じ事業を掲載し、連携を進めながら取り組んでいるところであり、最終的には復興から地域振興などのその後の事業へということでやっているところでございますけれども、復興推進プランにつきましては計画期間が４年ということで、その第２期、第３期のプランについては第１期の復興推進プランが終わったときの復興の状況を踏まえて、その策定の部分も含めて検討していくこととしております。とりあえず５年間は基本的には国費を活用して第１期復興推進プランの事業を進めながら、その後は検討していくこととしてございます。

○吉野専門委員長　それでは、大体時間も来ましたので、御質問は以上にして、議事の１については終了にしたいと思います。さまざま御意見もいただきまして、このレポート2019については御説明をいただいたということになっておりますけれども、概要版については若干指標の中身が少しタグづけできるようなというふうな御質問、御意見もございましたので、概要版については、若干修正がもしあればお願いしたいと思います。

これで議事の１を終わりにしたいと思います。

（２）その他

○吉野専門委員長　本日はその他がもう一つありますけれども、これについては委員の皆様からはありますか、よろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長　事務局からはございますか。

○北島政策推進室評価課長　次回の第３回専門委員会についてでありますけれども、親委員会である政策評価委員会と同日で２月に開催する予定としております。具体的な日程は後日お知らせいたします。御協力のほどよろしくお願いいたします。

○吉野専門委員長　では、年度内にもう一回会議を開きますので、御出席よろしくお願いいたします。

では、委員の皆様、また担当の各企画室等々の皆様はありがとうございました。政策評価については、終わりがないものですので、今度新しいステージに入って、さらに進めていきたいと思いますので、引き続き御協力よろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

３　閉　会

○北島政策推進室評価課長　それでは、以上で令和元年度第２回岩手県政策評価専門委員会を終了いたします。長時間の御審議ありがとうございました。